

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-247363

(P2007-247363A)

(43) 公開日 平成19年9月27日(2007.9.27)

(51) Int. Cl.		F I		テーマコード (参考)		
E 0 6 B	7/28	(2006.01)	E 0 6 B	7/28	F	2 E 0 1 6
E 0 6 B	3/74	(2006.01)	E 0 6 B	3/74		

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2006-76346 (P2006-76346) (22) 出願日 平成18年3月20日 (2006.3.20)	(71) 出願人 000204985 大建工業株式会社 富山県南砺市井波1番地1 (72) 発明者 河合 厚 富山県南砺市井波1番地1 大建工業株式 会社内 (72) 発明者 小沢 忠司 富山県南砺市井波1番地1 井波ダイケン プロダクツ株式会社内 Fターム(参考) 2E016 HA10 JA01 JA11 LA01 LB11
---	---

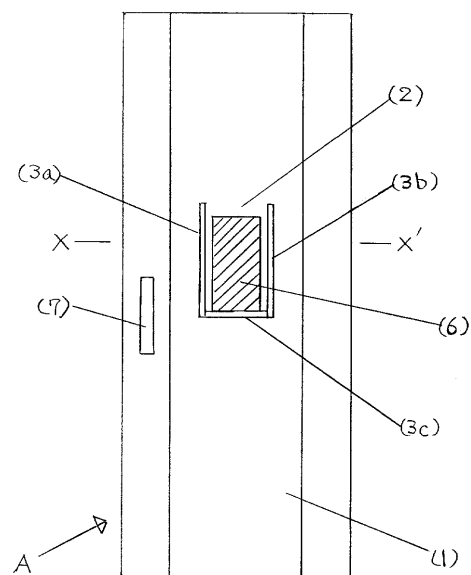
(54) 【発明の名称】 木製戸

(57) 【要約】

【課題】 近年増加している老人介護施設等の共同住宅において、居住者が自室を容易に認識できるような木製戸を提供する。

【解決手段】 室外側表面(1)に、視覚認識用揭示部(2)を設けることで居住者が視覚的に自室を認識できるようにしたもので、視覚認識用揭示部(2)が、例えばレール状の上下枠部材(3a)、(3c)又はレール状の下枠部材(3c)を必須とするレール状の三方枠部材で形成されており、そのレール状枠部材で囲われた空間内に視覚認識用揭示物(6)が挟持できるように形成されていることを特徴とする請求項1に記載の木製戸。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

室外側表面に、視覚認識用揭示部が設けられてなることを特徴とする木製戸。

【請求項 2】

視覚認識用揭示部が、レール状の上下枠部材又はレール状の下枠部材を必須とするレール状の三方枠部材で形成されており、そのレール状枠部材で囲われた空間内に視覚認識用揭示物が挟持できるように形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の木製戸。

【請求項 3】

視覚認識用揭示部が、磁石がすいつく金属板で形成されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の木製戸。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、特に老人介護施設等の共同住宅の部屋の出入り部に用いるに適したドア、引き戸などの木製戸に関する。

【背景技術】

【0002】

昨今の高齢化社会が進む中で、老人介護用の共同住宅が多く建設されてきている。そして、このような住宅の開口部においては、例えば特開 2004-218345 号に一例を示すように、ハードな面で身障者や要介護者などに使い勝手のよい様々な工夫が施されている。

20

【0003】

しかしながら、上記老人介護用の共同住宅の室内ドアにおいては、通常木目柄の表面化粧を施した、同じように見える木製のドアや引き戸等の木製戸が用いられている。このため、介護を必要とする老人等の居住者にとっては、例えば部屋の入り口に名札等が設置されていたとしても、自分の部屋か否か簡単には認識できず、その結果迷ったり、他人の部屋と間違ったりすることがあった。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明は係る問題点に鑑みなされたもので、介護を必要とする老人等の居住者が、不安感を抱くことなく自分の部屋であることを容易に認識することができる木製戸を提供することを目的とする。

30

【課題を解決するための手段】

【0005】

このため、本願請求項 1 の発明の木製戸は、室外側表面に、視覚認識用揭示部を設けてなる構成とした。

【0006】

また、請求項 2 の発明の木製戸は、請求項 1 の発明の木製戸において、視覚認識用揭示部が、レール状の上下枠部材又はレール状の下枠部材を必須とするレール状の三方枠部材で形成されており、そのレール状枠部材で囲われた空間内に視覚認識用揭示物が挟持できるように形成した構成とした。

40

【発明の効果】

【0007】

本願請求項 1 の発明の木製戸は、その室外側表面に視覚認識用揭示部を備えているので、この揭示部に居住者が自分のものと視覚的に認識できる写真、絵、色紙等を掲示することができ、これによってその部屋が自分の部屋であることを容易に識別できるようになる。

【0008】

請求項 2 の発明の木製戸、および請求項 3 の発明の木製戸は、視覚認識用の揭示物を簡

50

単に且つ交換容易に掲示することができる例を示したものである。

【発明を実施するための最良の形態】

【0009】

以下本発明の実施形態を図面に基づき説明する。図1、図2は本発明の第1実施形態である木製戸Aを示し、図1はその室外側から見た正面図、図2は図1のX-X'断面の拡大図である。

【0010】

図1、図2より、木製戸Aは、木質化粧パネルからなる室外側表面材(1)に、視覚認識用掲示部(2)が設けられて構成されている。そして、この視覚認識用掲示部(2)は、左枠部材(3a)、右枠部材(3b)、下枠部材(3c)のいずれも断面コ字形のレール状の三方の枠部材(3a)、(3b)、(3c)と、この三方枠部材(3a)、(3b)、(3c)のレール状溝部(4)で挟持される透明性カバー材(5)とで構成されている。

10

【0011】

(6)は視覚認識用掲示物で、居住者が自分のものと認識できる写真、絵、色紙等のシート状の掲示物であり、枠部材のない上方から差し入れられて、三方枠部材(3a)、(3b)、(3c)と透明性カバー材(5)とで挟持されるようになっている。(7)は、把手である。

【0012】

上記枠部材(3a)、(3b)、(3c)の形状は、上記第1実施形態の断面コ字形のレール状に限定されるものではなく、例えば断面逆L字状等種々の形状に形成することができる。またその材質は、木製、金属製、プラスチック製等であり、表面材(1)にビス、接着剤、両面テープ等により固定することができる。

20

【0013】

また、上記透明性カバー材(5)は、透明な合成樹脂板や合成樹脂シート、或いはガラスなどを用いることができる。

【0014】

図3は第2実施形態を示す木製戸Bの正面図であり、その視覚認識用掲示部(2)は、レール状の下枠部材(3c)と上枠部材(3d)と、この上下の枠部材(3c)、(3d)のレール状溝部(4)で挟持される透明性カバー材(5)とで形成されており、左右に枠部材がないので、この左右から視覚認識用掲示物(6)を差し入れて、この視覚認識用掲示物(6)を左右の枠部材(3c)、(3d)と透明性カバー材(5)とで挟持できるように形成されている。

30

【0015】

図4は第3実施形態を示す木製戸Cの正面図である。その視覚認識用掲示部(2)は、鉄、ステンレス等の磁石がすいつく金属板(9)が固定されて形成されており、この金属板(9)の表面に視覚認識用掲示物(6)を当てて、磁石(8)によって固定できるように形成されている。

【0016】

図5は第4実施形態を示す木製戸Dの正面図である。その視覚認識用掲示部(2)は、透明な合成樹脂よりなる折り曲げ可能な袋体(10)が、その上部を両面粘着テープ、面ファスナー、接着剤などにより室外側表面材(1)の表面に固定されて形成されている。そして、この袋体(10)の中に、視覚認識用掲示物(6)を差し入れ、この袋体(10)を二つ折りして面ファスナー等により、その上部を室外側表面材(1)に固定して使用される状態を示している。

40

【0017】

このように、本願発明の木製戸によると、その視覚認識用掲示部に居住者が自分のものと認識できる、写真、絵、色紙等の視覚認識用掲示物を交換可能に掲示することができるので、この木製戸を介護を要する老人などの居住する共同住宅に用いると、居住者が自分の部屋であることを容易に認識することができる。

50

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】 本願発明の第1実施形態である木製戸Aの正面図。

【図2】 上記図1の木製戸AのX-X'断面図。

【図3】 本願発明の第2実施形態である木製戸Bの正面図。

【図4】 本願発明の第3実施形態である木製戸Cの正面図。

【図5】 本願発明の第4実施形態である木製戸Dの正面図。

【符号の説明】

【0019】

A、B、C、D

(1)

(2)

(3a)、(3b)、(3c)、(3d)

(4)

(5)

(6)

(7)

(8)

(9)

(10)

木製戸

室外側表面材

視覚認識用揭示部

枠部材

レール状溝部

透明性カバー材

視覚認識用揭示物

把手

磁石

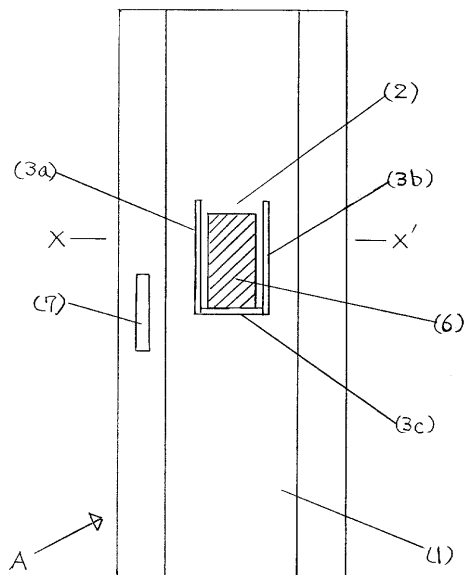
金属板

袋体

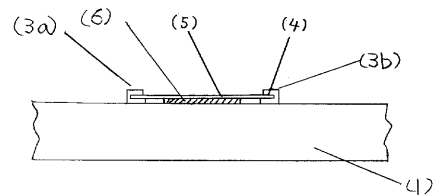
10

20

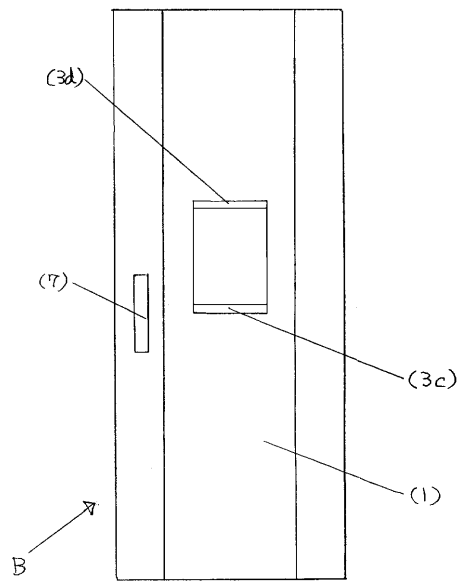
【図1】



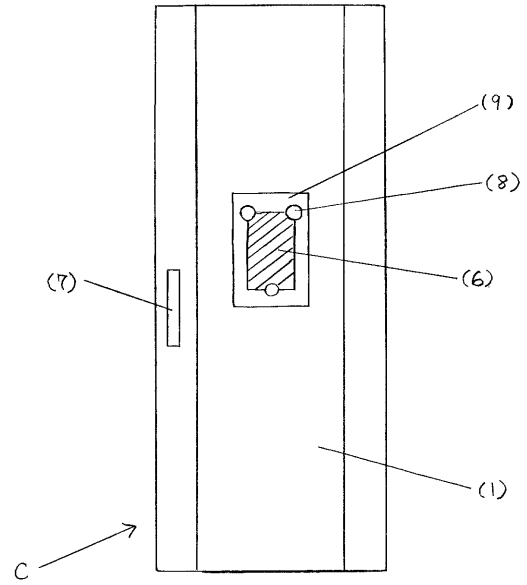
【図2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

